

置き去りにされたクリスマス

町に流れるクリスマスの音楽、ショーウィンドーの飾り付け、なんとなく華やいだ雰囲気ですが、クリスマスつていつたいなんだろうと、もう一度考えてみたいものです。

花田憲彦

わけのわからないお祭り騒ぎ？

十一月の声を聞くや否や、クリスマスのイルミネーションで街が一色になる日本。クリスマスチヤン人口が1%に満たないこの国においても、クリスマスは国民にとつて、お正月に次ぐ、楽しみな「イベント」となっています。

ある企業が行つた調査によると、「あなたにとつてクリスマスとは？」との質問に対しして、『家族で楽しむもの』という回答が五七・八%で最も多く、次いで『恋人たちのもの』『盛り上がるイベント』と続きました。その他にも、『ケーキを食べる日』『プレゼントをあげる日』『イルミネーションを楽しむ』などの回答がほとんどだつたということです。

クリスマスのことをよく、「X'mas」と略字表記されることがありますが、なぜだかご存知でしょうか。クリスマスは英語では「キリストの祭り」という意味ですが、ギリシャ語では「キリスト」を表す言葉の最初の文字が、英語のX（エックス）によく似ていることから、省略してX'masと書くわけです。しかし、数学ではXは、分からぬものを表す記号もあります。ですからX'masというのは、「わけのわからないお祭り騒ぎ」という皮肉にもとれそうです。

クリスマスの意味

クリスマスの起源は、聖書にあります。イエス・キリストの誕生の場面です。目に見えない神が、目に見える姿となつて、その愛を示すために、そして私たち人類の罪の身代わりとして、十字架上で刑罰を受け、自らの命を捧げるためにこの地上に人となつてお生まれになつたのです。

まず天使によつて、父ヨセフにキリスト誕生の喜ばしい知らせが伝えられました。

「主の天使が夢に現れて言つた。『ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によつて宿つたのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。……その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である」（マタイによる福音書二章二十二～二十三節）

「イエス」という名前は、「主は救われる」という意味ですが、キリストは「インマヌエル」とも呼ばれます。それは、「わたしはあなたと共にいる」というメッセージでもあるのです。神ご自身が罪深い私たちを救い、永遠に共に住むためにこの地上に来られ

燃え尽き社会に架かる虹



た、これがクリスマスです。
ところが、喜ばしいはずのクリスマス

の出来事には、別の側面もあつたことを
聖書は記しています。

「彼らがベツレヘムにいるうちに、
マリアは月が満ちて、初めての子を
産み、布にくるんで飼い葉桶に寝か
せた。宿屋には彼らの泊まる場所が
なかつたからである」（ルカによる
福音書二章六～七節）

イエスが生まれた時、旅の途中で
あつたヨセフとマリアが泊まる場所
がなかつたのです。彼らは仕方なしに、
家畜小屋で一夜を過ごさなければなり
ませんでした。まさにそんな夜に救い主
がこの地上にお生まれになつたのです。

人々から歓迎されるどころか、人々に追いやられ、人知れずして、
暗く、冷たく、不衛生な家畜小屋に生まれ、しかも、「飼い葉おけ」
が生まれたばかりのイエスの最初のベッドになりました。飼い葉
おけとは家畜のエサを入れる箱のことですが、当時の飼い葉おけ
は、石でできていたようです。人々から追いやられ、固く、冷たく、
汚れた石の上に来られた人類の救い主。ここには、神に背を向け、
罪の中を歩み続ける私たち人類と、その私たちを愛し、救おうと
される神との関係が象徴的に表されているのです。

この石の飼い葉おけは、神と人に對して心を閉ざし、かたくな
になつてしまつた私たちの心を表しています。しかし、キリスト
はそんな石のような私たちの心の直中に来られるのです。



「インマヌエル」の希望

私の友人は、幼い頃に父親を病氣で亡くしま
した。それ以来、母一人、娘一人の家庭で育つ
てきました。夜は、理由の分からぬ懼れに
囚われて、うつ伏せになつて全身にぎゅつと
力を込めなければ眠ることができない状態が
高校生になるまで続きました。そんな彼女が
教会に通うようになり、イエス・キリストを
心に迎え入れ、洗礼を受けたまさにその夜か
ら、初めて安心して仰向けに寝ることができます。

キリストを心に歓迎する時、私たちの石の
ような心は、孤独感や存在の不安感から解放
され、その愛によつて柔らかく溶かされてい
きます。

私の尊敬する老牧師が、癌に侵され、ホスピスに入院されました。
病室を訪れるたびにその老牧師がご自分を励ますように語つてお
られた言葉を忘れることができません。

「今の私を支えているのは、インマヌエルの神の約束です」
インマヌエル——それは全知全能なる愛の神、そして私たち人
類の罪を救うためにご自分の命まで捨てられたキリストが、どこ
までもどこまでも共にいてくださるという約束です。キリストは
悩みと困難の中にいる者と共にいて、慰め、励まし、希望の力を
与えてくださるのです。

「あしあと」という次の詩は、インマヌエルの神の姿をよく表現
しています。

燃え尽き社会に架かる虹

ある夜、わたしは夢を見た。

わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。

暗い夜空に、これまでのわたしの人生が映し出された。

どの光景にも、砂の上にふたりのあしあとが残されていた。

ひとつはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、わたしは、

砂の上のあしあとに目を留めた。

そこには一つのあしあとしかなかつた。わたしの人生でいちばんつらく、悲しい時だつた。

このことがいつもわたしの心を乱していたので、わたしはその悩みについて主にお尋ねした。

「主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、わたしと語り合つてくださると約束されました。それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、ひとりのあしあとしかなかつたのです。いちばんあなたが必要としたときに、あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、わたしにはわかりません」

主は、ささやかれた。

「わたしの大切な子よ。わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試みの時に。あしあとがひとつだつたとき、わたしはあなたを背負つて歩いていた」

（マーガレット・F・パワーズ）

マーガレット・F・パワーズ著『松代恵美訳』『あしあととFootprints』—多くの人々を感動させた詩の背後にあらわす物語』（財）太平洋放送協会（PBA）1995年

本当のクリスマスの回復

人々は心の平安を求めています。この世が与えるような一時的

な平安ではなく、真実の平安です。それは罪が赦されていることから来る平安であり、その確信は、神が共にいてくださるということ信仰から生まれます。それがクリスマスが本来、私たちに教えていることです。この本質が置き去りにされてしまつたが故に、現代を生きる多くの人々が、ストレスや不安感という重荷に苦しんでいるのです。

インマヌエルの約束を福音書に記したマタイは、その最後をキリストの次のような約束で締めくくっています。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイによる福音書二十八章二十節）

あなたの心の中には、キリストが宿られるスペースがありますか。今日、あなたの心の中心にキリストをお迎えください。あなたの人生に本当のクリスマスが回復される日、それは今です。天には栄光、地には平和、ハレルヤ。神様の祝福がありますように。

（はなだのりひこ・SDA神戸有野台キリスト教会牧師）

エレン・G・ホワイトの言葉

「神の恵みによつて新たにされた心にとつて、愛は行動の主原則である。愛は資質を修正し、衝動を支配し、感情を制御し、愛情を

高める。心に抱かれたこの愛は、人生を麗しくし、清澄にする感化を周囲に与える」

『明日への希望』 一五六六ページ